

モード Mode Mode は語る

中野 香織

スーツに見る英国の変化

チャールズ3世が9月に英国王となつて間もなく、10月にリシ・スナク氏が同国首相となった。この2人のスーツスタイルが、今日的な対照をなしている。

英国王室メンバーは伝統的にそれぞれの個性に応じたスーツの規範を示してきた。チャールズ3世も例外ではなく、皇太子時代からダブルスーツを好み、ポケットチーフやブトニエール（ボタン穴飾り）も含む華やかなVゾーンを演出してきた。ファッション産業の支援や地球環境保護に対する啓蒙活動に熱心で、スーツや靴は英国老舗企業の最良を選び、傷むと修理して長く愛用し続けるという姿



バッキンガム宮殿で談笑する英国王チャールズ3世とスナク英首相—ロイター

勢も示している。かけはぎやつぎはぎはチャールズパッチと呼ばれ、新品からそれを模様のようにあしらう倒錯したトレンドまで生んだ。古き良きジェントルマン型の美学をかたくなに体現する国王は、名実ともにキング・オブ・スーツであり、持続可能性が求められる時代におけるリーダーとしての意識も高い。

一方のスナク氏は、経営学修士号(MBA)と米金融大手ゴールドマン・サックスでの勤務経験を持つグローバル資本主義における金融エリートである。テラーは2009年に創業したヘンリー・ハバートで、サビルロウにあるとはいえ、

同地の他の百年企業に比べれば新顔である。3500疋(約59万円)というスーツは英国人男性としては小柄なスナク氏をバランスよくスマートに見せる。スリムで無駄のないスーツにスキニータイを合わせ、プラダの靴をはくスナク氏は、英ガーディアン紙の表現を借りれば「ミッションの後に迅速な後始末を計画する、雇われ暗殺者」の雰囲気を漂わせる。トラス前首相が退陣したあとの経済的混乱の後始末を請け負う有能な財務管理人という褒め言葉と解釈しよう。

国王と首相が着るまったく異なる方向性のスーツは、保守の支配層の多様化を映し出すかのようだ。ただ、どちらのスーツも大多数の英国国民の現実からは浮世離れして見えそうだという点は共通している。

国王と首相装い対照的